

## 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大 学 名	九州大学
-------	------

### ◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	目的は概ね実現された。
(コメント)	
<p>                     拠点大学の国際化については、総長の強いリーダーシップの下、国際化戦略を推進する体制が整備され、取組を着実に実施しており、事業目的は概ね実現された。                 </p> <p>                     英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、学部及び大学院で計画どおり開設され、特に、全ての大学院にコースを開設した取組は大いに評価できる。入学者数も全体的に増加し、既に500名以上が在籍していることも高く評価できる。一方で、入学者がいないコースがあり、学生確保に向けたより積極的な取組とニーズに合ったコース内容の精査が望まれる。                 </p> <p>                     留学生受入のための環境整備については、アジア6か国・地域にオーストラリアとエジプトを加えた8か国・地域を受入重点国と位置付け、海外拠点を設置し、教職員を積極的に派遣して優秀な留学生の獲得に努めていることは評価できる。留学生用宿舎の整備、学内文書の英語化やホームページの英語による情報発信の充実等、概ね留学生から良い評価を得ている。大学と地域が連携して留学生の支援体制を整備しているものの、今後、地域の経済界及び行政と一体となった教育特区戦略の取組に発展することが望まれる。                 </p> <p>                     海外大学共同利用事務所の整備については、計画どおりカイロオフィスを開設し、エジプトの政情不安にもかかわらず、ワンストップサービス業務等の継続運営や現地におけるネットワーク構築が行われていることは評価できる。                 </p> <p>                     目標の達成状況については、目標を上回る留学生受入を達成するとともに、大学間交流協定等に基づく交換留学において、短期海外留学プログラムの充実により、目標を上回る日本人学生の海外派遣を実現している。                 </p> <p>                     今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、本事業で構築した学部及び全ての大学院の英語による授業のみで学位が取得できるコースを継続して実施し、更に充実することが述べられている。東アジアの玄関口である立地条件を活かした歴史的・地理的必然が導く特色あるアジア重視戦略に期待する。創立100周年を機に「九大百年、躍進百大」を掲げ、どの分野においても世界トップ100大学に躍進することを目指すとしており、その実現には教育研究のなお一層のグローバル化が肝要であるため、重点化と戦略性を持って取り組むことが望まれる。                 </p>	